



ひまわり

Vol. 26

チーム医療の充実

～病院機能評価受審（3rdG:Ver1.0）を終えて～

看護部長 緒方くみ子

7月10日・11日関口顧問、先生方、師長さん、みんなの力で病院機能評価受審を無事終えることができました。多くの課題と苦労がある中で、前向きに取り組んでいただき感謝しています。今回の評価結果はまだですが、現在の日本で行われている標準的な医療の水準を満たしていること、何よりもチーム医療の体制が整い、日々実践できていることを評価していただけたのではないかと思います。

この受審であらためて感じたことは、各部門が其々に専門分野の医療に自信と誇りを持ち、質を追求することが重要であること、お互いの協力があって初めて組織の力も発揮できるということでした。職業人である前に一人の人間としての成長が互いの力を弱めることにも強めることにも影響してしまうと考えます。支え合い大切にされていると感じられる組織風土を強めていきましょう。

これからも課題は、チーム医療の質の評価と充実です。患者さんに安心し、満足していただける為に看護部は一人一人の看護の質を問い合わせし、共に成長していきたいと思います。これからも、ご協力をお願い致します。



カトレア親睦会

松元 美智子主任



H25.8月21日（水）に看護部の親睦会で、今年約10年ぶりに球技大会を復活させました。開催前は球技大会ということで参加者がとても少ないので心配していましたが、各部署のカトレア会委員の必死の声かけと上位勝利チームへの賞金の宣伝効果の賜物か、100名を超える大勢の参加者数となりました。会場は病院近くの「サンアビリティー川内」で18:30~20:30開催しました。

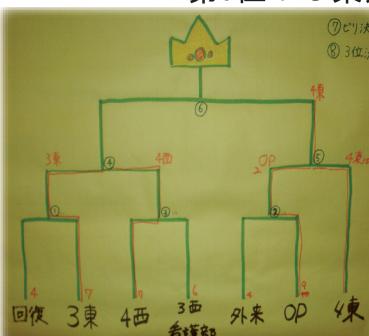
球技内容は“ドッヂビー”という種目で、部署対抗「トーナメント式」で試合をおこないました。連日猛暑の中、冷房もつかない体育館の中で、みんな汗だくになりながらも、賞金獲得にむけ頑張っていました。スタッフの中には、普段仕事の時には見せたこともないような笑顔や真剣な表情・鋭い目つき、素早い動きで競技に臨んでいる人もいました。

みんなの楽しそうな笑顔とチーム一丸となって競技に参加している姿から、医療従事者としてチーム医療を行っていくうえで、とても大切なコミュニケーションをはかる機会となったと感じました。試合には出なかった方々も熱心に声援を送っていました。

あっという間に2時間が過ぎ、怪我人や事故もなく競技の全てを無事に終え、大盛況で幕を閉じました。準備したお弁当とお土産のレンガチョコレートケーキも好評でした。

多数のご参加有難うございました。

【試合結果】優勝：4西病棟
準優勝：4東病棟
第3位：3東病棟



院内研修レポート

7/16 ランニング研修

4階西病棟 教育委員 森山 良美

「リーダーシップ」について研修が行われました。リーダーに対してのイメージで良い点は、自分にリーダーという役割を与えてもらい、上から認められている、信頼されている、悪い面ではプレッシャーやストレス、責任という意見がありました。

講義の中でPM理論（集団機能という視点からリーダーシップの類型化を試みた理論）を用いて点数をつけていき自分が何に属するか参考にしていました。今後リーダーになるために先輩方をお手本にしこんな先輩のようになりたいなと描きながらリーダーになってほしいと思います。

また、グループワークでは、①実際自分がリーダーになるために必要な事、やらなければならないこと。②こんなリーダーになるぞ。③こんなリーダーにはならないぞ。のテーマに沿って用紙に書いてもらいました。看護部の廊下に貼りだしてあるのでぜひ観てください。

8/29 専門コース「HCUコース」

3階東病棟 教育担当 下妻 カンナ

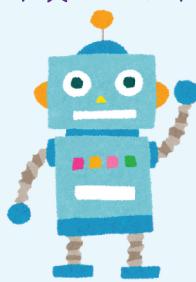
8月29日（木）集中ケア認定看護師の猿楽看護師により、循環器編のフィジカルアセスメント研修が開催されました。

今年度から公開講座にもなり、院内院外計47名の参加がありました。

内容は、解剖生理に始まり、心電図（12誘導心電図の読み方・不整脈の判

読と危険度、体液・輸液の分類、ショックの分類、心不全（病態、治療）、Aラインの読み方、心エコーなど広範囲で、難しかったという意見も多くありましたが受けっぱなしではなく、持ち帰り自己学習を行いスタッフ全体のレベルUPに繋げられるよう、今後は後輩の指導にも活かして頂ければと思います。

次回は、10月24日「脳神経系」 17:00～の予定となります。



8/8 ジャンプ研修

4階東病棟 教育委員 林 直人

「実習指導案作成」をテーマに、週案作成、三観、指導目標、指導計画。日単位の指導計画（日案）の作成日案は外来での事例を通して、くわしい説明をしていただきました。その後はグループに分かれて、実習要項や参考書を元に、日案・週案を作成に取り掛かりました。初めての実習指導案作成に、どのように指導していけばよいのか迷うところもあったようで、担当指導者に意見をもらいながら作成をしていました。作成した指導案は9月26日に発表会を行い、それぞれの情報交換を行う場とします。

今後、作成した指導案をもとに看護師が学生に対して同じような指導ができるような指導案の完成を目指していきます。

8/22 ホップ研修

回復病棟 教育委員 森山 良子

ホップ研修2回目の「看護研究計画書の書き方」についてでした。前回の研修で学んだことをもとに、各自計画書を持参してもらい、それをもとに項目毎に具体的に分かりやすい講義内容でした。今回の講義によりさらに具体的に計画書の作成ができるのではないかと思います。これから看護研究を行うにあたり、テーマの決め方や進め方など疑問は果てしなくありますが、一つの指標となつたのではないかでしょうか。

8/1 アシスタントナース研修

外来 教育担当 吉永 裕子

介護福祉士への研修として、医療従事者としてのコミュニケーションの基本を学び積極的傾聴法ができるという目的で講義が行われました。

まず始めに、人は第一印象で判断することを学び、対人コミュニケーション、医療コミュニケーション、言語コミュニケーション、積極的傾聴法のポイントなどを心理学について実際にコミュニケーションをとる場面設定などを行い、座る位置や角度など方法を体験し、他人が話をしている時は、途中で割り込まないなど、話を聞く姿勢などを学んだという反省が沢山出ていました。

7/17 人材育成プログラム

人材育成プログラム2回目「医療コンプライアンスの習得」について研修がありました。医師でもあり、弁護士でもありその立場から、とても興味深い講義をして頂き、時間があつという間に感じられるほどでした。内容は法律的なものでしたが、いかに記録が大事であるか改めて感じました。個人情報保護法に関しても再確認できました。家族や患者への説明も、インフォームドコンセントすればよいのではなく、患者や家族との信頼関係を築く事が、大切であるとおっしゃられていました。今回学んだことを活かして行きたいと思います。また次回以降の公開講座にもたくさんのスタッフにぜひ参加してほしいと感じました。



8/20 人材育成プログラム

4階西病棟 西川 尚子副主任

みなさんは『接遇』と聞いてどんなことを思い浮かべますか？マナー？身だしなみや言葉づかい？接遇とは相手を思いやる、いたわる心が形になったものです。その相手は一人一人違うと思いますが、大事なことは「相手の立場に立って考える」ことです。

医療現場での接遇は、患者さんやご家族に生理的・心理的・物理的な安らぎと自立をもたらすための医療サービスと提供者の行為（言葉と態度）が大事になると思います。

研修での事例は普段遇う場面が多く、自分なりに意識していても「気づかい」が不十分だったと感じることが多かったです。接遇について改めて考える機会になり、振り返りながら今後に活かしていきたいです。

3階西病棟 田代 龍也

ウォーキング

他部署体験

3階西病棟 神野 彩



今回、他部署体験として回復リハビリ病棟での研修を行いました。今回の研修を通して、回復リハビリ病棟の特性や、退院支援・調整について等学ぶことができましたが、特に今回の研修で興味深かったのは、回復病棟で取り入れられている「パートナーシップ・ナーシング・システム」です。看護師・看護助手が3人1組でチームを作り、チーム内での情報共有が密に行われているため、共通認識を持った上で日々の業務や看護にあたることができていると感じました。また経験年数が浅い私にとって、先輩方の情報収集の仕方やコミュニケーションを見ることで、自分の看護にも活かせることができるシステムでもあるのだと実感した研修でした。

医療安全・感染対策合同研修

グループワークを通して学んだ事

手術室 教育担当 小浦 優太

今回看護師を対象とした初めての試みで、医療安全と感染管理との合同での研修が行われました。研修の目的が、「看護師のリスク感性を高める」とし、事例を通して普段行っている何気ない日常業務の中に潜む感染・医療安全の視点で考える事を再度意識でき、今後の業務に活かせる良い研修であったと思います。

グループワークでは、他部署との意見交換や各ラダーのメンバー編成になっており、それぞれの立場による役割遂行も狙いの一つであった為、非常に意義のある研修になりました。ぜひ今後もこのような研修が行われる事を望みます。



看護必要度評価者院内担当指導者研修に参加して

看護必要度評価者 院内指導者研修を終える事ができました。

回復病棟 皮籠石 札子

研修を受けるきっかけは、業務として看護必要度を入力していますが、基本的知識をしっかりと身につけて正しく理解して上で、正確な評価が出来るようになりたいと考えたからです。

研修を受ける事前学習として、e-ラーニングで20点満点を取らなくてはならず、最初は点数も低く回数を重ねていく事で点数も上がり満点を取ることができました。

7/7の研修では、講義とビデオを見てテストを受けました。A・B項目を評価し記録に残す演習もありました。

看護必要度のチェックは簡単に書かれていますが、定義がとても分かりづらく評価が難しい為に、患者の状態を客観的に観察し評価する事が大切です。今回の研修で学んだ事を病棟看護師が正確に評価できているか確認し指導できるようにしたいと考えます。

私達の病棟では、PNS導入にて看護師がペアになって看護実践している事から、ペアの看護師が、患者をどうのよう観察し記録に残しているか、質問するなどして理解度を確認正しく評価、記録が出来るように関わっていく事が出来たら共に成長していくのでないかと考えます。



4階西病棟 松下 明香

7月25日、26日に第44回日本看護学会～老年看護～への研修が開催されました。

講演内容として、（特別講演）長寿先進国である日本の高齢者の実態はどうか。そして、長寿モデル国として日本はどんな役割を果たすべきか。（教育講演）在宅療養において看護が果たす役割。（シンポジウム）急性期から看取りまでのケア、高齢者の活動など様々な立場で高齢者に関わる4人が活動の状況・課題を提言されました。

長寿先進国での開催であり、これから少子化・高齢・多死社会にどう対応していくかを考える機会となりました。高齢者が、その人らしく尊厳を持ち生きることを支える医療が求められています。急性期から、退院の方向性を視野に入れ、情報の共有を図り他職種との連携を図ることが重要であることを再認識できました。看護師は中心的存在にあり、患者・家族の思いを大切にし、看護師として何をすべきかを考え看護へ反映させていこうと思います。

救急救命士学科病棟実習

副看護部長 長井 砂都美

9/5～9/25の予定で、救急救命士学科2年生の学生さんが病院実習に来ています。9/12～9/13は、各病棟で看護師について実習しました。

「入院後の患者さんの状態を見ることができてよかったです。」「患者さんに、頑張りなさいと声をかけられ、反対に、すごく元気をもらいました。」など、実際に入院している患者さんのケアを通しての感想を述べてくれました。実習を一つずつ自分の糧にして、これからもがんばってくださいね。



手術室だより

手術室 村尾智子師長

お疲れさまです。今回は、手術室から患者さんの手術を受ける精神的サポートについてお話をさせていただきます。手術を受ける患者さんは手術室前の乗換ホールで緊張度がピークに達するというデータがあります。そこで、手術室では患者さんのお好きな音楽を聴けるようCDの持ち込みをお勧めしています。CDプレーヤーを準備して1ヶ月経ちますが、

「子供が買ってくれたCDを流して欲しい」などといった患者さんの声とともに好評です。これから多くの方に利用してもらい、少しでも入室時の緊張がほぐれるようにと思います。術前訪問時にも声かけしますが、病棟のスタッフの方々にも知っていただくことで、事前に家族が自宅からCDを持ってきてくださる時間ができます。どうぞ、よろしくお願ひします。



マイブーム

4東病棟 山根 結子

実家に帰った時のブームを紹介したいと思います。それは20数年前のホームビデオを見る事です。よちよち歩きの三女とひたすらケーキを食す次女、上機嫌の私が、父の「ケーキ美味しい人？」と言う問いに3人で「はーい！」と手を挙げ三女の手が私の顔面を直撃するというありがちな映像で、クリスマスや豆まきなどを記録したものです。

クリスマスには忘れられない思い出があります。両親は下の妹の事を考え、私にもサンタさんの秘密を教えませんでした。情報漏洩を防ぐためです。そのため私は14歳までサンタさんを信じていました。とは言え私も中学生です。「お父さんが包みを置いていた。サンタからの手紙の筆跡がお母さんと同じだった」と友人に聞き、どういう事がと母を問い合わせましたが、母は涼しい顔で「忙しくて父親に手伝いを頼んだのでは？サンタさんは外人だから母親に代筆を依頼したのだ。」と言いました。なるほどと思いました。三女が10歳を迎えた年。突然の告知は彼女からでした。「お姉ちゃん知らんかったと？サンタってお母さん達よ。」「えっ？マジで！」それ以外の言葉は見つかりませんでした。



ミニナラティブ

3階東病棟 恵畠 昭人

看護師として2年目となりましたが、まだまだ知識、技術が不足しており業務に追われる毎日です。

以前行った同期でのナラティブ研修では、自分の心に残っている看護場面の発表を行いました。自分が患者さんの思いを聞きどう関わっていったかの発表を行いましたが、自分の行動を振り返り考えることのできる時間となりました。

また、同期の発表を聞くことで自分との考え方の違いや、自分だったらどうするだろうと考えるよい機会となりました。今は毎日の業務に追われ、自分が考えているような関わりができていません。自分の目標とする看護師像は、患者さんの話をしっかりと聞け、安心感を与えるような看護師です。考えるだけでなく、実践できるよう今後も自己向上に努めていきたいと思います。



編集後記

今年の看護部の親睦会は、約10年ぶりの球技大会で、例年以上に暑い夏が、さらに熱い1日となったようです。朝・夕は少し涼しくなってきましたが、日中はまだまだ暑い日が続いています。みんなのそれぞれの団結力を発揮して、残暑を乗り切りましょう。（長井）

